

2025年7月の振り返り&今後のポイント

YMfg | ワイエムアセットマネジメント

商号等 ワイエムアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 中国財務局長（金商）第44号
加入協会 一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

- 本資料は、情報提供を目的としてワイエムアセットマネジメントが作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を推奨・勧誘するものではありません。
- 本資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。
- 本資料に掲載されている当社の意見ならびに予測は資料作成時点のものであり、予告なしに変更することがあります。また、本資料は当社が信頼できると考える情報源から得た各種データなどに基づいて作成されていますが、その情報の正確性および完全性について当社が保証するものではありません。本資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを示唆あるいは保証するものではありません。
- 本資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 本資料の内容に関する一切の権利は当社にあります。本資料を投資の目的に使用したり、承認なく複製又は第三者への開示等を行うことを厳に禁じます。

2025年7月の振り返り

米国関税交渉を経て米国に資金回帰

市場	変動要因 等
債券（金利）	<p><u>米国債券は下落（金利は上昇）</u> 米国のCPI（消費者物価指数）は、関税引き上げの影響から上昇しました。また、FOMC（米連邦公開市場委員会）では金融政策の現状維持が決定され、利下げ観測が後退したことで、金利は上昇しました。</p> <p><u>国内債券は下落（金利は上昇）</u> 参議院選挙で与党が過半数を割ったことで財政拡張への懸念が強まり、加えて日銀による物価見通しの上方修正観測から、金利は上昇しました。</p>
株式	<p><u>米国株式市場は上昇</u> 米国と主要貿易相手国との間で関税交渉合意が進展したことや、大手テクノロジー企業の好業績・積極的な設備投資を好感し、株式相場は上昇しました。</p> <p><u>国内株式市場は上昇</u> 日米間の関税合意が好感されたことに加え、参議院選挙で与党が過半数を割ったことで政権交代への期待が高まり、株式相場は上昇しました。</p>
リート	<p><u>海外リートは下落</u> 海外の長期金利が上昇したことから下落しました。</p> <p><u>国内リートは上昇</u> 他の資産と比べて分配金利回りの高さや割安感が評価され、投資資金が流入し上昇しました。</p>
為替	<p><u>為替相場は米ドル独歩高</u> 関税交渉による米国の貿易赤字縮小や対米投資拡大期待に加え、利下げ観測後退を背景に、ドルは主要通貨に対して上昇しました。</p>

今後のポイント

◎米国のスタグフレーション懸念は杞憂か？

- ・ 関税の影響が物価（財価格）に表れ始めた中、7月の米国雇用統計で雇用者数の伸びが大幅に減速したことで、「景気悪化とインフレが同時進行するスタグフレーション」への懸念が浮上しました。
- ・ これまでは、関税引き上げ前の**駆け込み需要や在庫投資・生産が景気を下支え**してきましたが、**今後はその反動**から消費減速や生産停滞、さらに在庫損失・仕入れコスト上昇による企業収益の悪化といったリスクが高まる可能性があります。
- ・ 一方、基調的なインフレ率を表すサービス価格は落ち着いており、**旺盛なAI関連投資や海外企業による米国への投資**が景気の下支え要因となることも期待され、スタグフレーション回避の可能性も残されています。

◎割高感のある資産の価格調整リスク

- ・ 7月までのリスク選好の高まりにより、米国株、ミーム株、ハイイールド債など一部資産には割高感が出ています。これらの資産については、今後の価格調整リスクに注意が必要と考えられます。

◎ジャクソンホール会合が転機、FRBは9月利下げを示唆するか、日銀は動けず

- ・ 米国の雇用環境が弱含む中、FRB（米連邦準備制度理事会）は利下げに柔軟な姿勢を見せつつあります。もっとも**関税のインフレへの影響が軽微にとどまること**が大前提です。8月後半のジャクソンホール会合は、FRBが9月FOMCで利下げを示唆するか注目されます。
- ・ 一方、日銀は金融環境の安定を重視しており、当面は利上げに動きづらい状況が続くと見られます。

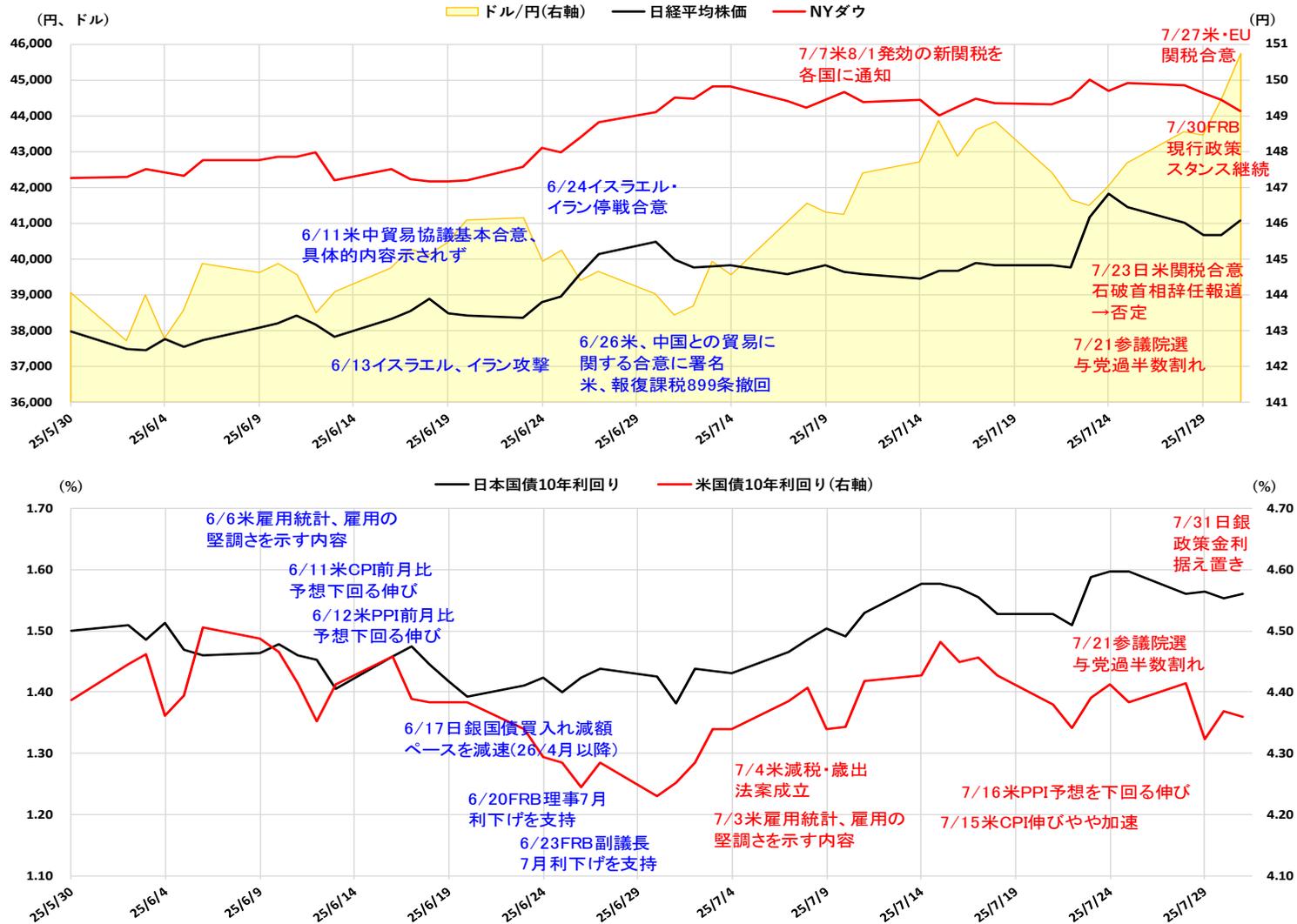
【まとめ】

- ・ 米国雇用に対する見方の変化によって、市場が一時的に調整するリスクは考えられます。一方で、月中旬発表の**物価指標が安定**し、消費や生産関連データから**米国景気の底堅さが確認され**、FRBが**利下げを示唆**した場合は、市場は安定に向かうと期待されます。
- ・ なお、不安定なマーケットが長期化した場合には、信用リスクの高まりや金融市場の流動性低下により、リスク回避の動きが強まる恐れがあります。そのため、**景気やインフレに対する不確実性の高まりに備え、投資余力を確保**する姿勢が有効と考えます。

主な相場変動要因

主な相場変動要因

(2025/5/30～ 2025/7/31)



(出所) LSEGよりワイエムアセットマネジメント作成

※上記は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。